

事業名	資源管理に必要な情報提供事業
予算区分	諸収入＋一般財源
事業実施期間	平成9年～
担当者	上田幸男，安藤大輔，石川湯子
共同研究機関等	各府県水産研究機関

<目的>

資源管理型漁業の推進と効率的な操業を支援することを目的に，本県沿岸域の漁海況を分析し，迅速に情報を提供する。

<方法>

漁業調査船「とくしま」による海洋観測結果，南西東海海況速報，地先水温情報(鳴門庁舎，美波庁舎，牟岐水産資源栽培センター汲み上げ海水水温)及び県下8漁協(和田島，椿泊，橘町，伊島，由岐，牟岐東，鞆浦，宍喰漁協)の漁況情報を収集し，分析検討したうえで速やかに週間漁海況情報(令和3年14～50号，令和4年1～13号)としてホームページ，ファックス及び新聞により情報を提供した。また，最新の海況図を月～金曜日に，鳴門，日和佐，牟岐地区の地先水温情報ホームページで公表した。

<結果>

週間漁海況情報は徳島県立農林水産総合技術支援センターのホームページに掲載するとともに，徳島新聞朝刊の経済面に毎週掲載した。情報を見ていただくと黒潮の動き，地先水温及び県下の主要な漁業の動向を理解することができる。2021年の黒潮の動向，地先水温などの海況と漁況の動向について表1にまとめた。

<今後の課題>

伝票から入力している標本漁協があるので，効率化を図る必要がある。また，海況の予測が担当者の視覚的な経験則に依存しているので，漁海況予測システム構築事業を通じて機械学習による予測を徐々に導入したいと考えている。

大切なことは年50号を決められた火曜日に海況図とともに実直にホームページに公表するとともに漁獲データを丁寧にデータベース化していくことである。

<次年度の計画>

毎週1回の頻度で週間漁海況情報を提供する。

<結果の発表・活用状況等>

農林水産総合技術支援センターのホームページに掲載するとともに，徳島新聞朝刊の経済面に掲載した。

表 1. 2021 年の海況と主要漁況の動向

漁海況	区分	2021年動向
海況	黒潮	2021年も2017年8月以来の黒潮大蛇行が継続した。南西東海海況図によると大蛇行はA型が69.4%を占めた。紀伊水道沖の黒潮は室戸岬沖で「やや離岸」～「著しく離岸」、潮岬沖沖で「離岸」～「著しく離岸」で推移した。このため、室戸岬側からの暖水波及(芸東分枝流)の発生頻度が39.3%、中央分枝流が23.5%を占め、非蛇行年に比べて著しく高かった。室戸岬沖の黒潮の流路の変曲部(凹凸部)から強い暖水波及が50.7%の割合で発生する傾向が読み取れた。しかし、2021年12月から2022年3月は室戸岬沖でも「著しく離岸」状態の中でもより沖合を離岸する状態が継続するようになり、暖水波及がほとんどみられなくなった。
	地先水温	鳴門地区は4月から5月上旬は「やや高め」～「高め」、5月中旬～8月上旬は「平年並み」～「やや高め」、8月中旬～9月は降雨の影響により「平年並み」～「やや低め」、10月から12月は「平年並み」～「高め」、1～3月は「平年並み」～「やや低め」推移した。日和佐地区は暖水波及の消長の影響を受け、4月は「平年並み」～「やや高め」、5～7月は「平年並み」～「やや低め」、8～9月は降雨の影響により「平年並み」～「低め」、10～12月は「平年並み」～「やや高め」、1～3月は「やや低め」～「やや高め」に変動しながら推移した。
漁況	シラス	2017年8月の黒潮蛇行発生後、暖水波及多く外海からのカタクチイワシ稚仔の補給量多く、内海発生群も良好で6～9月、11～12月に好漁・好循環を呈した。2021年の紀伊水道中部の船曳網のCPUEは1.1トン/日隻となり、平年の2.07倍、前年の1.43倍となった。マイワシシラスは回復には至らず。
	マダイ	大型魚から小型魚まで資源量著しく多く、紀伊水道南部の小型底びき網のCPUEが平年の3.01倍、前年の1.86倍で好漁であった。
	サワラ	クロサバフグの漁具被害により紀伊水道の延縄のCPUEは平年の0.23倍、前年の0.29倍に止まった。
	八モ	クロサバフグの漁具被害を受けながらも、紀伊水道の延縄、小型底びき網のCPUEは平年の0.91～1.42倍でまずまず漁であった。
	タチウオ	紀伊水道における小型底びき及び延縄のCPUEの平年比は0.49～0.89倍で低調であったが、低水温期の紀伊海底峡谷(通称かばち)周辺の越冬場における海部沿岸曳網のみ1.92倍で好漁を呈した。
	イボダイ	紀伊水道における小型底びき網のCPUEは平年比0.91～1.25倍、前年比0.92～1.12倍で平年並みに推移した。
	もじゃこ	もじゃこ漁は著しく低調に推移し、海部沿岸下灘の大型定置網にはやや大型のモジャコがCPUE平年比0.45倍、前年比2.13倍入網した。モジャコ再捕期には大型化し、漁獲され難かった可能性も考えられる。
	つばす	海部沿岸下灘の大型定置網のCPUEは平年比1.12倍、前年比0.43倍で平年並みであった。
	めじろ	海部沿岸下灘の大型定置網のCPUEは平年比1.73倍、前年比2.88倍で豊漁であった。
	ブリ	海部沿岸下灘の大型定置網のCPUEは平年比0.72倍、前年比0.39倍でやや低調であった。
	シリヤケイカ	気候変動(大型台風の通過)に伴い資源量減少しているが、2021年の紀伊水道の小型底びき網のCPUEは前年を上回ったものの平年比0.47～0.70倍で低調に推移した。。
	コウイカ	気候変動(大型台風の通過)に伴い資源量減少しているが、2021年の紀伊水道の小型底びき網のCPUEは平年比0.69～0.96倍で低調から平年並みに推移した。
	クルマエビ	瀬戸内海全域で資源が減少しているが、紀伊水道南部の小型底びき網のCPUEは平年比0.75倍、前年比1.49倍でやや低調であった。
	クマエビ	漁獲が減少傾向にあり、2021年の紀伊水道の小型底びき網のCPUEは0.55～0.68倍で低調に推移した。
こえび類	2021年の紀伊水道の小型底びき網のCPUEは0.44～0.53倍で低調に推移した。	